

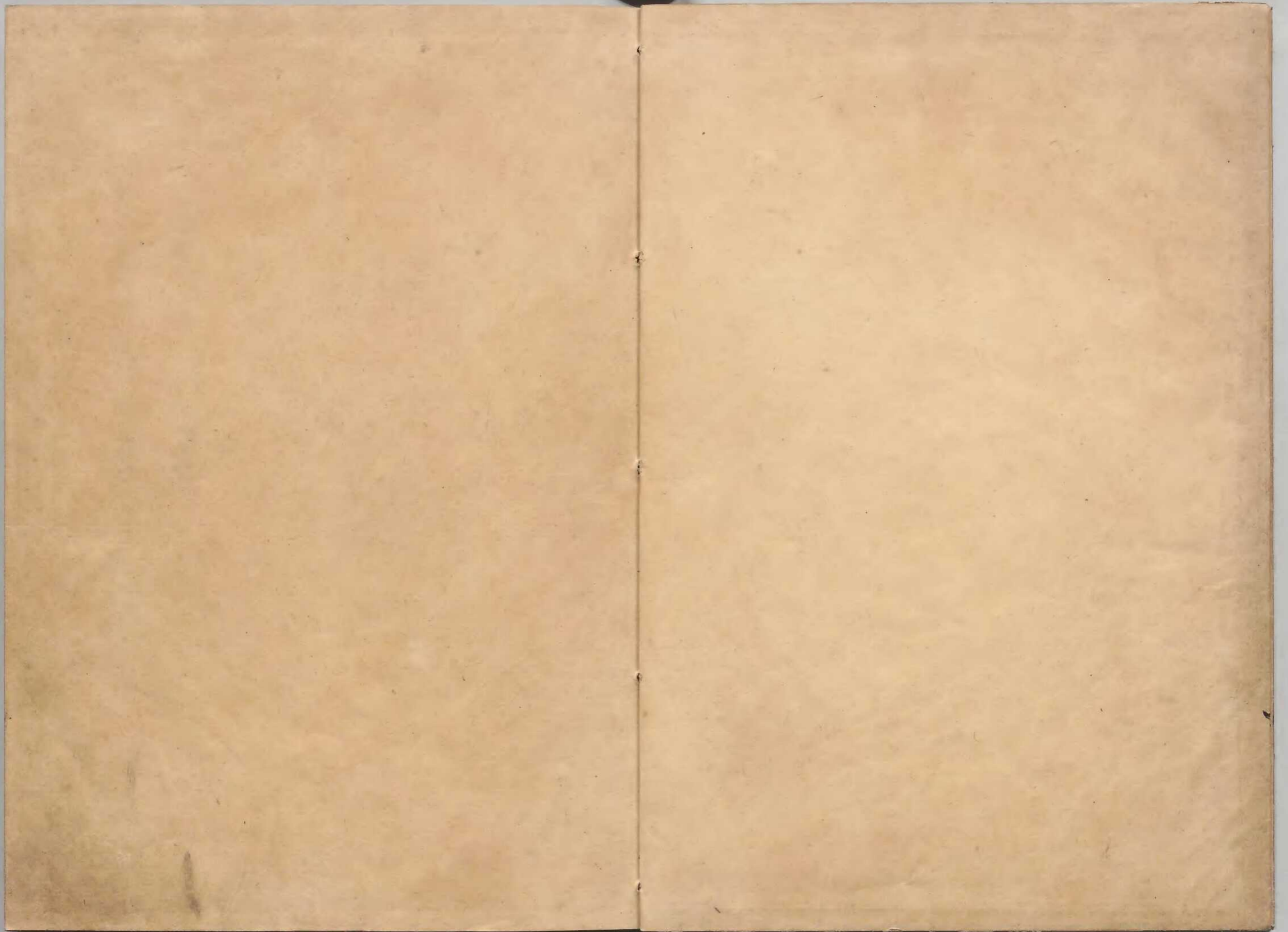
寛永諸家譜

支流 藤原氏全五冊之内本

183

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(133)		
函號		76	1





大恩 大草
恩上 恩首

寛永諸家系圖傳

藤原氏 癸二十

支流 大恩

● 忠勝

忠右衛門尉 生國之河

清康君 廣忠卿 正徳二年三月

東照大権現まつり

淺草文庫

享禄二年之州吉田合戦の時、
城を牧野傳次と討捕 清康君
これを獲美し、さゆの長身之法
持持とさよふ
永禄六年佐崎の女頼吉門徒一揆
のとき、福王忠右衛門と、頼勇士と
討捕 廣忠卿これと感づ、あひ
涉諱の字とさよふり忠緒と号し
之州よとひく病死七十之歳 法名

淨見

忠祐

吾七郎 生國曰前

清康君よつふ

享禄二年之州吉田牧野傳次が城を
獲美し、さよふり 討死

忠次

助十郎 生國曰前

初 廣忠卿よつ人そのち

大権現よつ人そのち

貞禄之ち尾州石湫合戦のち戦死を

忠政

大右忠尉 生國曰前

大権現よつ人そのち

正之年長篠の戦場よをいして首

級と得るそのち約命よりて

旨徳院殿よはく人そのち

武州江戸よとひて病死八十歳法石
浄西

忠俊

孫右郎 生國曰前

大権現よつ人そのち

慶長八年乙田治部少輔之成謀叛の

ち忠俊内友孫次清つ尉よ属し

城州伏見の城よ築て討死二十八歳

法名淨信いぢまゑ

忠行ちゆきやう

丸守郎 生國曰あ

大権現

台徳院殿よほりくくまひり

元和元年大坂沙陣よ侍奉し

八月七日より戦死も軍歳法名

受夢

忠種ちゆしゆ

丸守郎

実乃忠世の長男なりは本ほんのたから

大権現よ湯ゆししくくまひり

慶長十九年伯父の命よより

忠行の家督とほぐそのち

台徳院殿

將軍家よほりくくまひり忠納戸ちゆのりど

乃役とほし

忠世

忠世の尉生國の事

慶長二年二月十八日

大権現と縁

台徳院殿よはし

將軍家の侍はよ

と

某

権五郎

忠吉

後五位下 美濃守

慶長七年忠吉十六歳の時

大権現と縁

同八年頼米と縁

同十八年同十七年元和元年

食禄シヨクとくもふりて略シ進シ
列レとくもふりて略シ進シ
に依傍ヨシはる

元和二年

大権現オホクワン薨シ御ミの後

台徳院タイトクイン殿ノははる

これこ

將軍家シヤンクンカははる

東福門院トウフクモンインははる

後ノ位ノ下ノ叙シはる

とくもふりて略シ進シ
とくもふりて略シ進シ
とくもふりて略シ進シ
とくもふりて略シ進シ

忠章チウシヤウ

忠章

元和七年忠章チウシヤウ十二歳ジュニサイの時トキに

台徳院タイトクイン殿ノははる

寛永六年カンエイニ 御命ミノミコトははる

黒書院クロシヤウインははる

日七手沙白水番とはしむ日年糧
米と寺と戸と執

日九年

台徳院殿薨御の後

將軍家よはし人さくまひり

日十年ハ百石の領地とく一人と後

りり書院一候に

音明

之浦右太郎 生國駿河

大恩とあつこめ女氏と冒しては満

と号と九葉のともさ

台徳院殿よ孫湯とそものち

將軍家よはし人さくまひり

寛永四年沙小姓組に列し一は番

とはしむ

日六年糧米をたす

日十年四百石の領地とく一人と後

忠宗

宗兵衛尉

寛永十九年

將軍家の御命より

行千代君より

忠房

之浦之郎兵衛

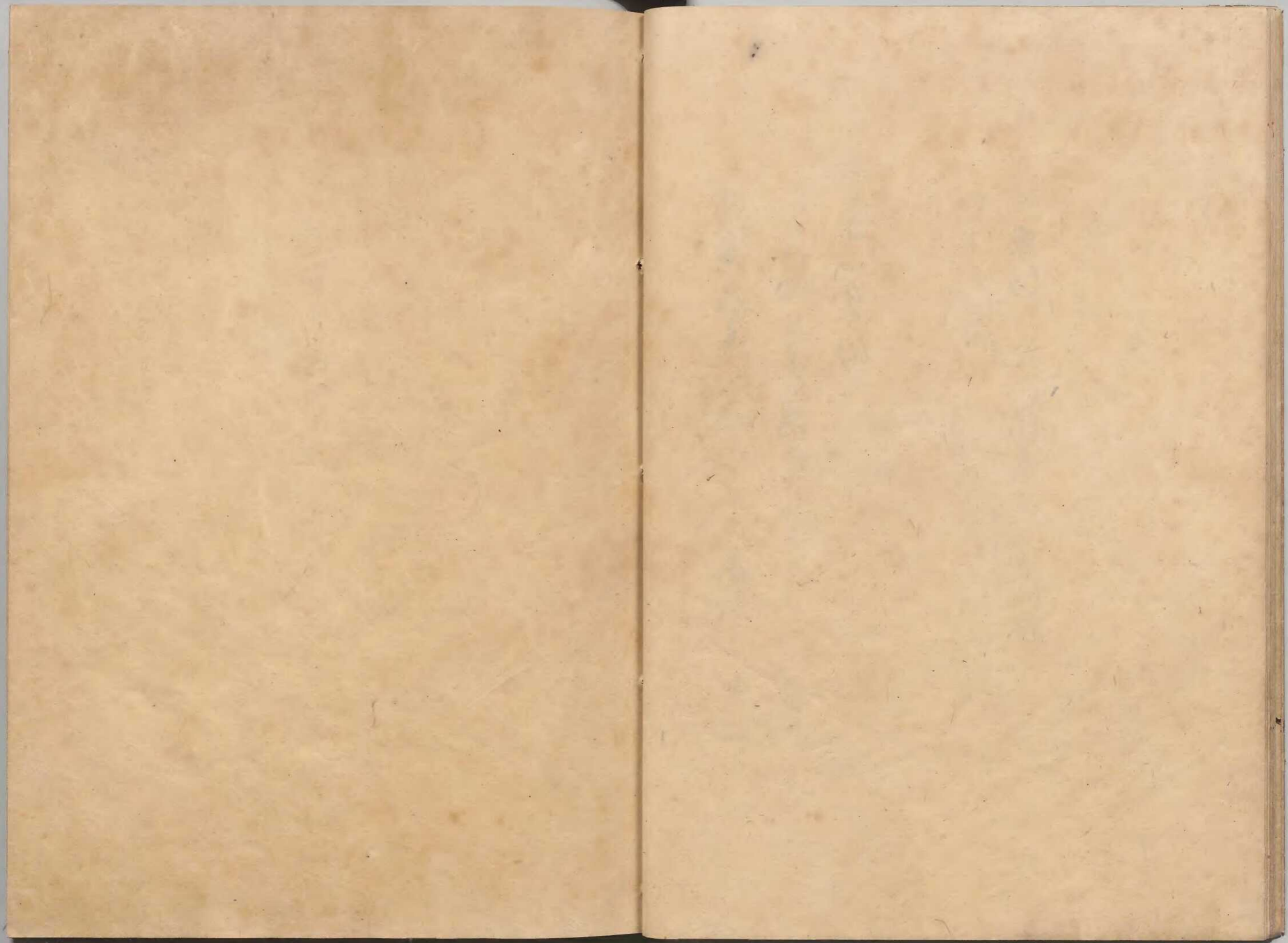
寛永十一年

將軍家御入洛の儀に

けり

十一歳なり

家紋 丸の内東稻下間狭



大愚おろ

外宗そとむね

孫右衛門まご

生四之河

廣忠卿ひろたけ之別わか之町まち

子法こはふとむ

次第

源重光の討 生國曰あ

東照大権現よりつらつらとまのりて志州よ

をひく断をひきつとむ

こと十八年國東津入國のとき一停

よりて相別小田原よ居候

清徳

傳説 傳者衆の尉 生國曰あ

永祿九年十月某のときより

大権現より近侍の

日十一年冬州よをひく一揆の徒

あるとき清徳十六歳よりして名を

えらわ

元龜三年三方原よとひく敵兵一

騎陣はよとみく味方の軍とら

かふよのやうい

大権現近侍の告^{つひ}友人^のに命^{めい}じてこれと

うさしめんしきまき清^{きよ}捨^{すて}かきつる

りあるして命^{めい}とつけし海^{うみ}りりいそぎ

死^しむかひこれと討^うちらひし大^{おほ}い

疵^{きず}とかりたる

大権現^{おほいけん}涉^{せつ}前^{まへ}よりあまきく軍^{ぐん}功^{こう}と稱^{せう}

美^いしと醫^い師^し仲^{ちゆう}丸^{まる}山^{さん}に命^{めい}じて療^{りょう}治^ぢと

くけくしきま

大^{おほ}正^{せい}孫^{そん}郎^{らう}運^{うん}心^{しん}とくしきい海^{うみ}と

父^{ちち}次^{つぎ}より命^{めい}じてこれと討^うちり

しきまにしきく清^{きよ}捨^{すて}郎^{らう}郎^{らう}

といけり

大権現^{おほいけん}年^{ねん}之^の涉^{せつ}感^{かん}の任^{にん}とかりり後^ご

教^{きょう}度^ど戦^{せん}場^{ばう}よとひく首^{くび}級^{きゆう}と得^うる

おの

文^{ぶん}禄^{ろく}元^{げん}年^{ねん}領^{りやう}地^ち八^{はち}百^{ひやく}石^{せき}と

慶^{けい}長^{ちやう}之^の手^て鉄^{てつ}炮^{ぱう}の足^{あし}根^ね又^{また}十^{じゅう}人^{にん}と

同^{どう}年^{ねん}岡^{おか}原^{げん}沖^{うち}に侍^{さむらい}たり

西陣きじんのちらぬ百石とくつり
於合あひあ千石と銘也
同九年伏見此治城番と法とむと
敬命けいめいよよりして

右徳院殿とくゐんつりつり
同十九年大坂御陣おおくさのみじんつり
おのせとかりつり先さきに仕家しけと
り身みつり

元和元年御陣ごじんつり大坂御

城乃番と法とむ

寛永元年八十二歳やして病死びやくし

正成まさなり

久茂ひさもち与よ之の右みぎの尉ゑい 生國なまくに日前ひまへ

十七歳じゅうしちさいの也なり

大権現おほいけんと法はふつりおのせよよりして

思崎しづき之の郎らう佐康さかう自よりつり人のち

大権現おほいけんつり法はふつり

同正十八年同東御入國とうとうとうごにりくにつり

領地又百石とたす
慶長八年圓原沖陣より
又百石とくくし
と飲
曰六年与力二十騎とほもる

正次

久茂 十右衛門尉 生國 曰あ
十六歳のとき

大権現より 湯 湯番とほとめ
湯切米とよみ
大坂の夜の水陣は 佐平とほとめ
そのら

名徳院殿

將軍家より 侍人として 二條
の御城番とほとめ

寛永三年十二月二日 死に歳
一

正友

久茂 生國武茂

十八歳のとき

右徳院殿と評礼のち

將軍家よつとくまひふ

寛永三年の切米ととも

同日年正次が造次とて

同十年の切米と領地よ河

なつびよか増の地よ

清政

傳茂 傳左衛門 生國武茂

慶長十九年十七歳のとき大坂よ

とひく

右徳院殿と評礼

大坂あ夜のし評よ休身よ米地

このちのち清徳の造次とて千石

乃地子將領也

清泰

甚久右衛門尉 生國曰あ

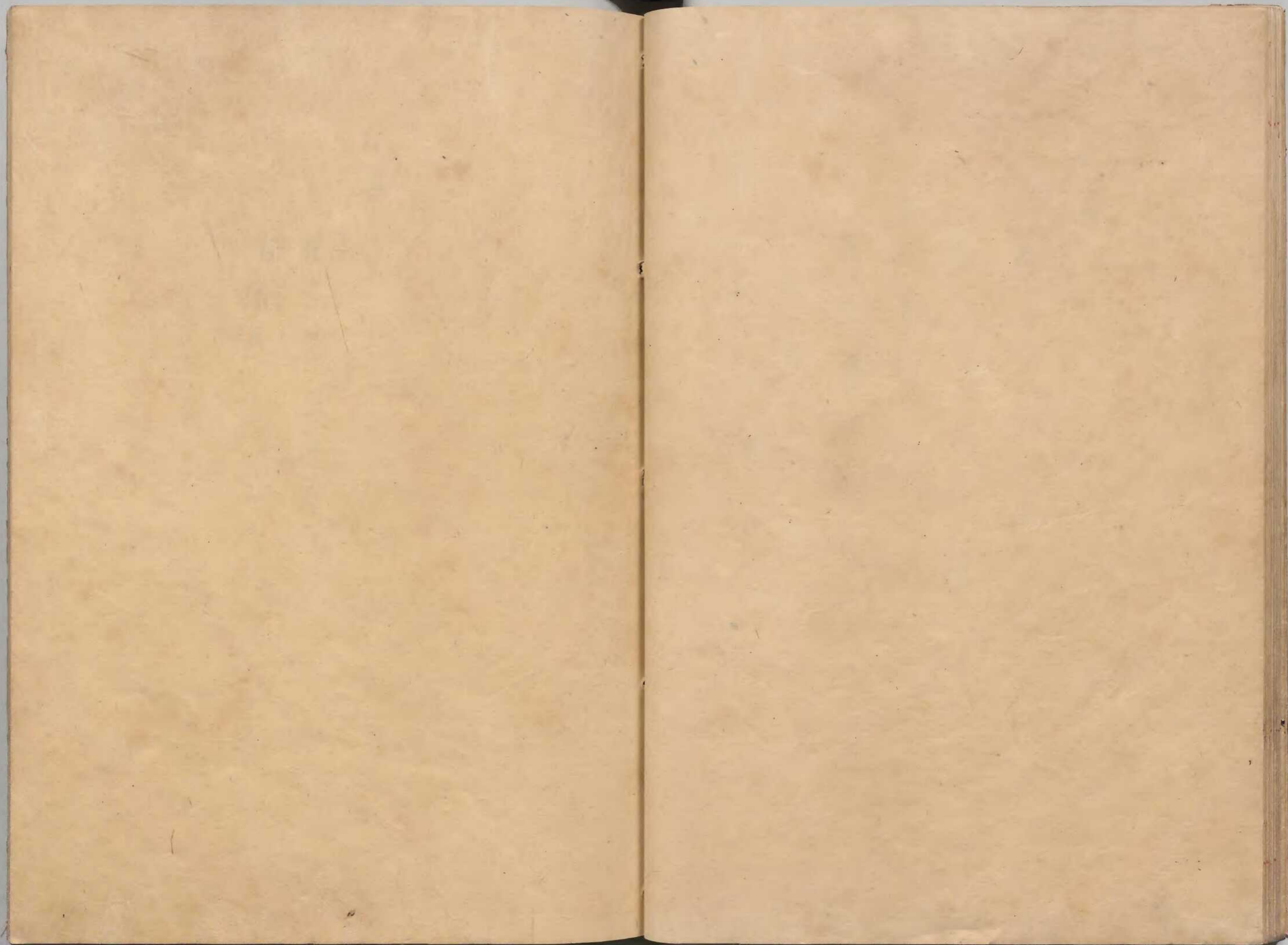
寛永十二年十七年とのと

將軍家と將領は

日十又年大御番とほやめ糧束

と

家紋 之 子 編



● 某

大畏 おかし

源六郎 みなもと 生國三河

清康 きよかみ 君 きみ 一 ひと 流 なが 如 ごと 入 い 幸 ゆき 流 なが 乃 の

某

源六郎 生國三河

廣忠弼ひろたけ一つふふははる

具

七右衛門尉 生國なかつくに曰いふ

廣忠弼ひろたけ一つふふははる

義勝よしかつ

七右衛門尉 生國なかつくに曰いふ

一つふふははる 忠たけ信のぶ康やす自よりははる

のちあきれく

東照大権現とうしょうだいこんげん一つははる

一つふふははる 長なが久ひさ手て合あ我がよよりははる

とえとええ

慶長けicho之の年とし一つははる

義重よししげ

作しやう左さ衛ゑ尉ゑ 生國なかつくに後ご河が

一つふふははる

右連院殿よりつづくまゝ
日十九年大坂陣の佐と勤
寛永元年より
將軍家よりつづくまゝ

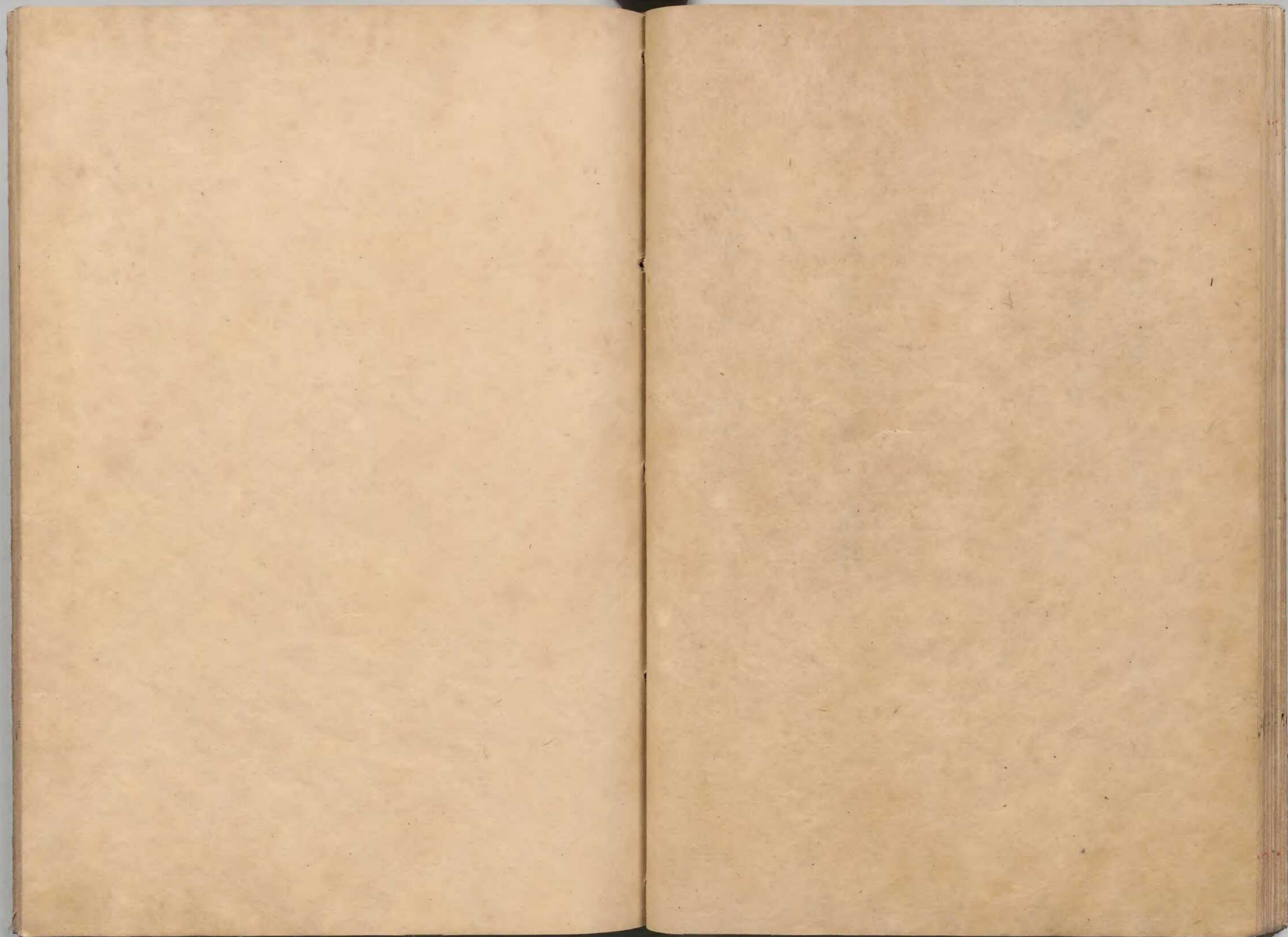
義廣

長十郎 生國武苑

寛永十四年より

將軍家よりつづくまゝ

家紋 丸乃内まるのうちに稻穂いねが



大恩 おん

政保 せいほ

之郎大夫 生國之

廣忠卿 ひろちか 侍人之

東照大権現 とうしょう 侍人之

元和元年八十一歳 げんわ して死

直政

二郎 兵衛尉 生國 同前

真田 ありびり 大坂 あり 度 の内陣 あり

右 徳院 殿 仕 領地 あり あり あり

その ち

將軍 家 あり 加倍 あり あり あり あり あり あり あり

一 徳院 殿 仕 領地 あり あり あり

政負

令之 郎

生國 武苑

右 徳院 殿 あり あり あり あり あり あり

元和 四年 二十 八 あり あり あり あり あり あり

政重

令之 郎 尉 生國 同前

將軍 家 あり あり あり あり あり あり あり あり

重利

二郎長清尉

生國武苑

寛永四年

父重政の家督とす

同六年より御書院番とす

同十年加倍とす海りりよとす

重定

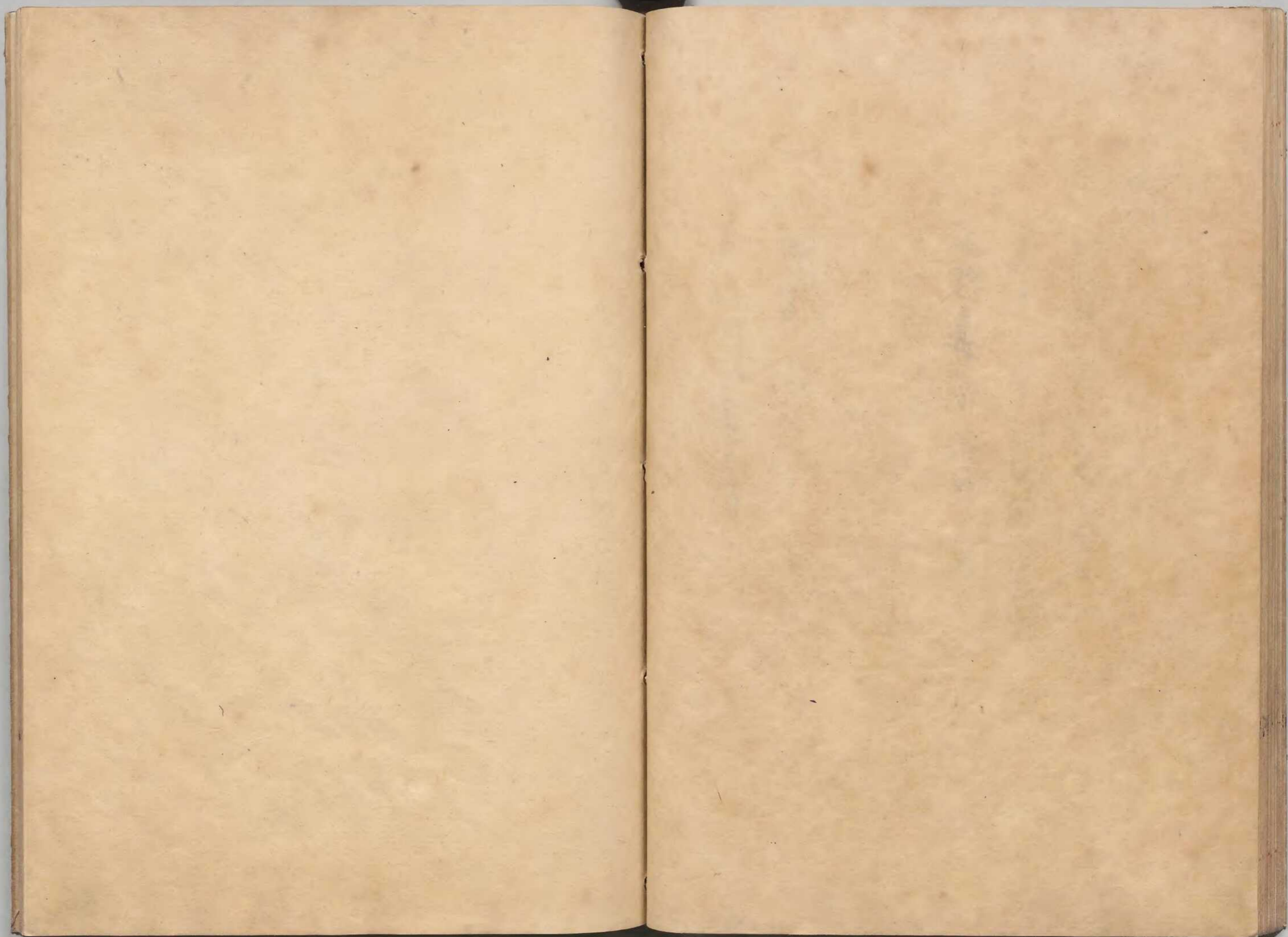
矢部之殿

外舅矢部助を包むて子とす

寛永十七年より

將軍家よりつゝり

家紋 升柄 稻穂



大愚おかし

● 集

左衛門少尉 冬ふゆ刑さだめ愚おかし崎さきよしる

廣ひろ忠ただ心こころななららびびよ

東照大権現よはたたりりととししるる

と正十一年 江え別べつ小こ若わかよしてて我われ不ふい

忠告

助十郎 生國曰あ

大権現

右権院殿了了入道

寛永三年正月十六日六十七歳にて
死す 法名清光

告次

権右衛門 生國武蔵

將軍家よりかへりてまゝの侍祿

重政

八代参府 生國曰あ

元和九年六月よりこれより
將軍家よりかへりて侍祿

告政

助十郎 生國曰あ

右徳院殿

將軍家よりつひにさくまひる

家紋 丸まるの内うち之の星ほし

大草おんくさ

●
云い波なみ
○

三郎さんらうたきふ尉ゑい

將軍しやうぐん源げんの尊そん氏しははく人ひと冬ふゆ河がの玉たま大だい

草くさの御ごと領りやう知ち氏し

觀くわん應おう年ねん中ちゆう尊そん氏し淨じやう教きやう書しよとと浦うら小せう

今いまよつとて云い貫くわんられとは約やく比ひ

楠軍刀柄別四條繩手合戦の由
云彈さきいけして討死し子孫
代に云方家ははふ
け間中絶

● 云重

云河守

將軍源義輝一つは別髪
くこ入と号一城別髪は磐石
と河一細川告込大捕後幽存と

旧在るにゆり云重よきも幽存が
不領丹後の國は居せり手と経て
病死と

云改

云河守

云重が監督をつとむ義輝よつふ

云^ま継^つ

次^つた^つ出^つ 生^ま國^こ山^{やま}城^{しろ}

云^ま継^つ伯^と母^は 名^なと 宗^{むね}源^{げん}院^{いん}殿^の 法^はの

ま^つの^り副^ふ佐^さと^り 別^{わか}れ ち^つの^り 大^{おほ}草^{くさ}と^りま

母^は 大^{おほ}草^{くさ}と^りま

將^{しやう}軍^{ぐん}家^け 法^はの 法^はの 法^はの

よ^りと^りて^し 云^ま継^つ 法^はの 法^はの 法^はの

め^い 法^はの

右^{みぎ}徳^{とく}院^{いん}殿^の

將^{しやう}軍^{ぐん}家^け 法^はの 法^はの 法^はの

云^ま貫^つ

三^{さん}郎^{らう}長^{ちやう}清^{せい}尉^{ゑい}

云^ま継^つ 法^はの 法^はの 法^はの 法^はの

新^{あらた}次^つ 法^はの 法^はの 法^はの 法^はの

右^{みぎ}徳^{とく}院^{いん}殿^の 法^はの 法^はの 法^はの 法^はの

右^{みぎ}徳^{とく}院^{いん}殿^の 法^はの 法^はの 法^はの 法^はの

其

新た連の吉後を水神越兵衛の所と
りしものち浪人とありて刑とて
死せぬ紋九門と蝶
云貫

將軍家よりはくしりし

法名承意

利進

大学

元和二年より

將軍家よりしりし

高正

七巻書尉 生國丹後

りしりし

白徳院殿とありしりし 釣命

りしりし

將軍家の傳とありしりし

寛永元年正月二十日三十八歳して
死す法名了喜道雲 梅香院と号す

女子

堀曲若菜尉直眼妻

女子

内友持若菜尉直信妻

高盛

童名千松後 敬命より白膳と号す

武剛 若菜

母若菜 幼名若菜尉直利が女が若菜守
正盛の姉なり

寛永元年父高正死するのと記

高盛胎内よりあると云く七ヶ月なり

うまねく男子なり

右命とかりり父高正の家督と

いふは是高正が四切あるゆゑなり

高盛自身のことと云ふなり

將軍家の湯（湯）〜〜〜〜七葉の

甚（甚）より御（御）小性（小性）〜列（列）〜近（近）侍（侍）〜

〜〜〜

家紋（家紋）菴（菴）の内（内）と階（階）菱（菱）

大草おかし

● 忠久ちゆうきゆう

与十郎 生國之河

忠成ちゆうせい

深右衛門尉 生國同前
之別しずく

東照大権現より人々をよしのとて神
長篠駿河教度の陣等
とひく首級とえり
と正十二年長久手の戦場
日十八年小田原なるいは奥州の
陣小あ病かりて依と
りて國東津入のやとてい
まの

孝長十一年武州忠よと
死と六十歳

忠次

深右衛門尉 武州忠よと
孝長十六年十八歳のとき初て
大権現より人々をよしのとて大坂
度の陣等依とてあその
旨 徳院殿

將軍家よつとくまひる

家紋 十文字とじの巻まき

義正

大草

次郎右衛門 生國之河
廣忠卿 一 法ふ

正重

次郎右衛門 生國遠江 法名忠重

東照大権現のつかり しるし

正次しんじ

半左衛門尉 生國いこく武藏むさし

右衛門尉

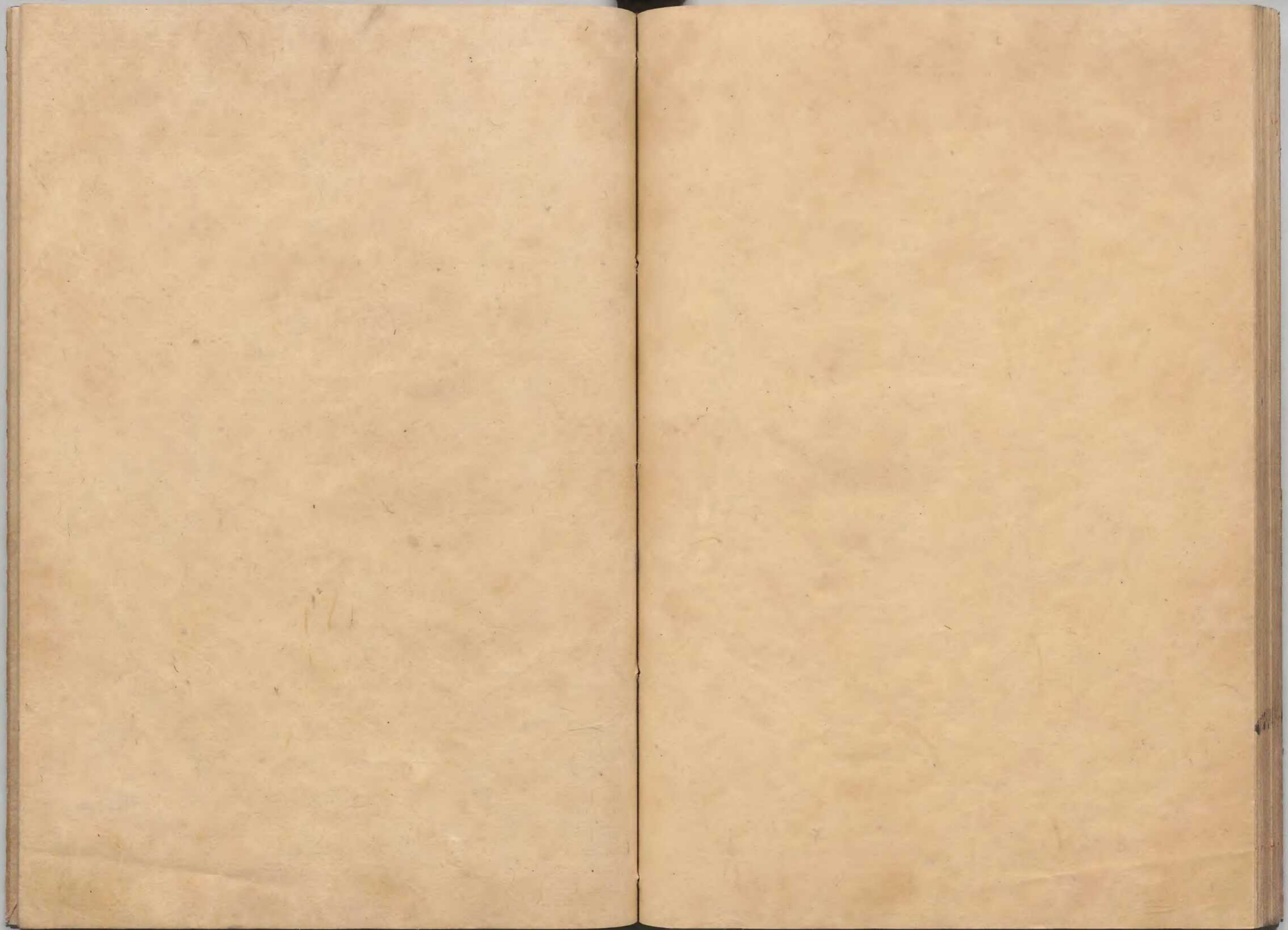
將軍家のつかり しるし

正膳しんぜん

八右衛門尉 生國いこく曰前いさへ

將軍家のつかり しるし

家紋 十文字じゅうもんじ乃磨のり



心者

大草

かゝる永田と祿

太郎馬 生國を江

東照大権現遠州伊入國のとき見付

よとひく新之城郭と築こま

けき良米と

て正のけり甲州の長高天神城は
插野城中の宿無下道は打も浪羽
御厨色の人民と遊教家賊なび
一々穀と奪とりこれよりりて
大権現濱松より湯るとかされは米束を伏
塚一陣をとるこまふこにま
く正吉精米とさげしきまひる

大権現の作はいさくは備はよ人民
山林草野のづれく海への刻けた

さよあしきぬともれは清感候
ありそのら甲州平均のときあされ
く御厨店の中代友とほとも又御厨
の名は道回郷御殿の番とほとも或
はくは清水鞆して御厨店内の又穀
焚せれば百姓とてに飢よともい料
作の業よりあみるがゆよ正吉
道回の御殿よりあみるがゆよ正吉
とくこのよとせしよ

大権現よ玄と一とくまひるとあま
正音と一とて憐愍とくま一
めまよふこのときめらねく山厨座
乃内和回郷よとひくかさげき
も欲知とたまるそのち甲州捨地
よはわく境とあえ途中より病よ
かりゆたにともひく死と法名玄考

正次

太郎馬 生國之河 法名道林
実乃大系次郎右衛門子外

大権現を刑部入玉のときこし郎重
色よこさきかひくまひる具男こ
人河守舟小八郎乃御旗本よつふ
まらる正次乃永田正音が婿とあつた
ゆへ正音が家督とくろのち
永田とけりこめ大系と称して下
統のほめされし御代友とけむ

正家

太郎馬 生國遠江 法名源林

大権現よはし人さくまのりよそのら駿府

一りとひく紀伊大納言頼宣卿

つゝ人代友とはしとむ

正信

右郎馬 生國同前

けづめ頼宣卿よはしふ頼宣卿紀州

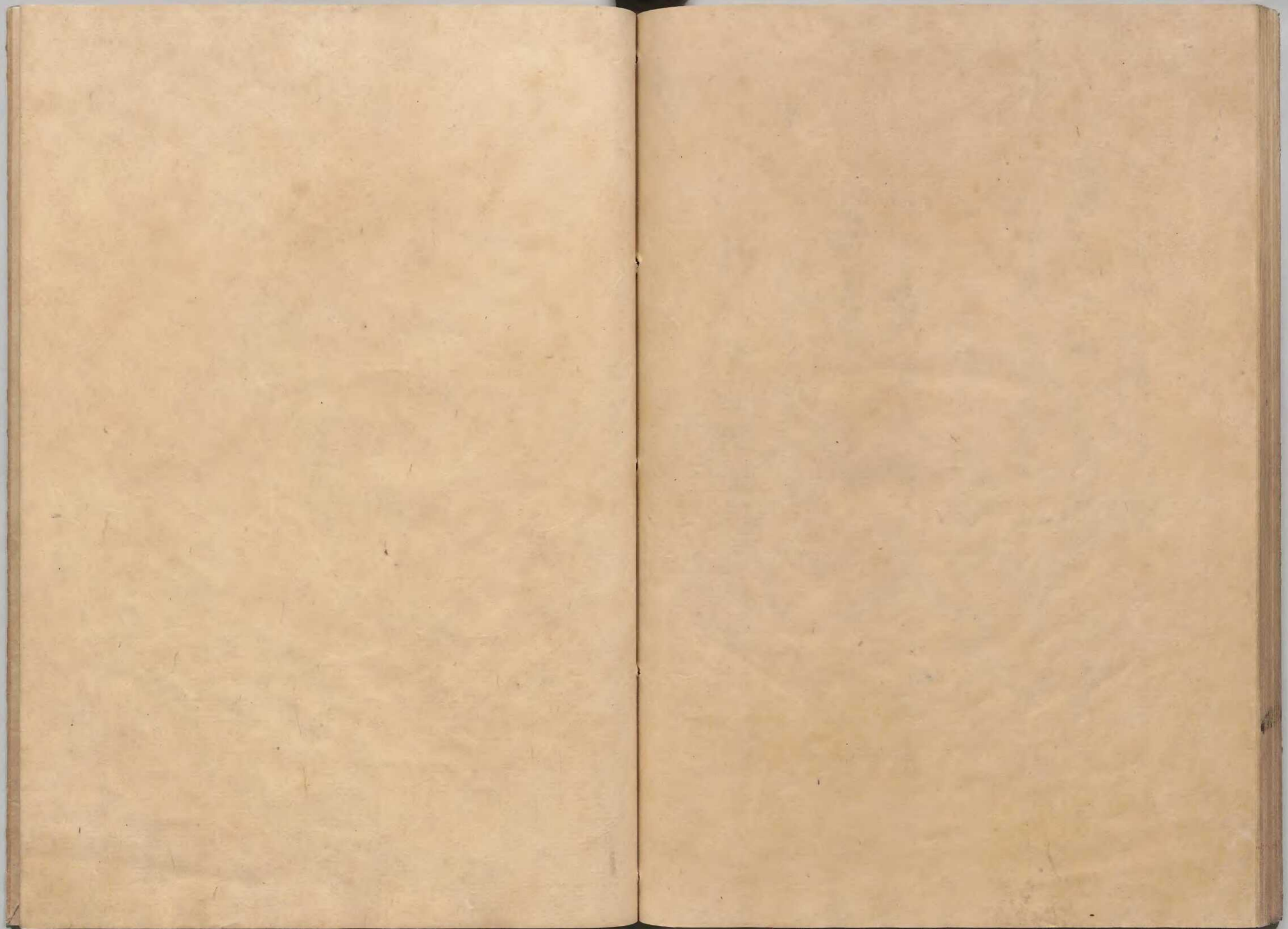
うのりよはしとむのち

旨徳院殿

將軍家よはし人さくまのりよ又水代友と

はしとむ

家紋十文字の響



界上よりの

系行けいぎ

豊前ぶんぜん 生國なまくに 武苑ぶゑん
小原こはら 氏政うぢまさ 小原こはら

系親けいしん

甚右しんご 尉ゑい 生國なまくに 同前どうぜん 法名ほふな 道鏡みちかがみ

享正十八年

东照大権現圖 東洋入國の好大久保スガ

一 属一 湯代友とほとむ

慶長十八年

台徳院殿ニ添謁一 そのら

將軍家ニ侍人ニとくまひる

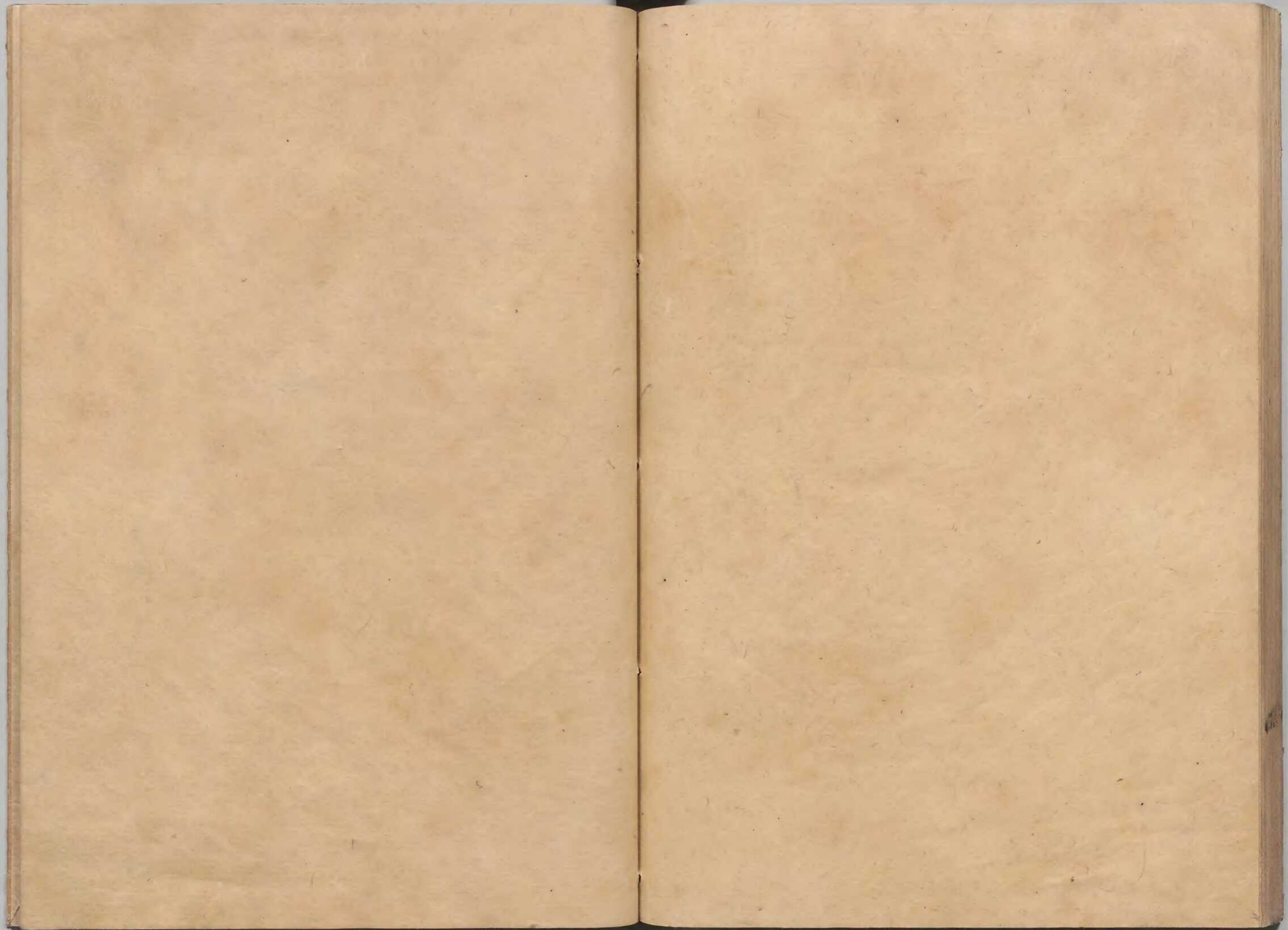
系親

甚右衛門尉 生國曰前

寛永八年

將軍家ニ侍人ニとくまひる

家紋端邊



思谷

● 法泰

山城守 生國武彦

泰信

勅解由た忠尉 生國曰あ
て正八年二十八歳して死に

泰重

佐左衛門尉 生國曰あ

正十九年十二月廿六日

東照大権現

文禄元年朝鮮陣のとき肥州名護

屋より佐左衛門は長小田原よとて

領地とたまひ

長八年

大権現乃お介せりありて

右徳院殿よつ一人しきりし小田陣よ

侍奉と

同十九年大坂陣より侍奉

翌年大坂再陣よる去後山城守が組

よありしとき江戸御城番守の番と勤

元和元年駿河御城番とつとむ

寛永元年

右徳院殿の釣命よよりしきり駿河大納言

忠長卿

同十年めきむく

將軍家よ喝し〜くさつり

同十一年旧儀と〜り

重信

与又兵衛尉 生園同前

寛永十二年〜り

將軍家よつ〜り

同十六年涉切米と〜り

家紋 太巴三氏

古書部 古文下 事 〇〇〇〇〇〇

